



## 水生こん虫<sup>すいせい ちゅう</sup>って、水<sup>みず</sup>の中<sup>なか</sup>でも息<sup>いき</sup>ができるの

### ほとんどが、水中<sup>すいちゅう</sup>で息<sup>いき</sup>はできない

水生こん虫<sup>すいせい ちゅう</sup>とは、水<sup>みず</sup>の中<sup>なか</sup>で生活<sup>せいかつ</sup>しているこん虫<sup>ちゅう</sup>のことですが、トンボやホタルのように幼虫時代<sup>ようちゅうじだい</sup>だけ水中<sup>すいちゅう</sup>にいるものと、成虫<sup>せいちゅう</sup>になっても水中<sup>すいちゅう</sup>でくらすものがあります。水中<sup>すいちゅう</sup>でくらすこん虫<sup>ちゅう</sup>は、もとは空気<sup>くうき</sup>中<sup>ちゅう</sup>で生活<sup>せいかつ</sup>していたものが、水中<sup>すいちゅう</sup>でくらすようになったものです。そのため、成虫<sup>せいちゅう</sup>は、水中<sup>すいちゅう</sup>で息<sup>いき</sup>ができるえらをもっていない。そこで、さまざまなくふう<sup>くふう</sup>をして、空気<sup>くうき</sup>を水中<sup>すいちゅう</sup>にもちこんだり、体<sup>からだ</sup>の一部<sup>いちぶ</sup>を水面<sup>すいめん</sup>に出して、息<sup>いき</sup>をしています。

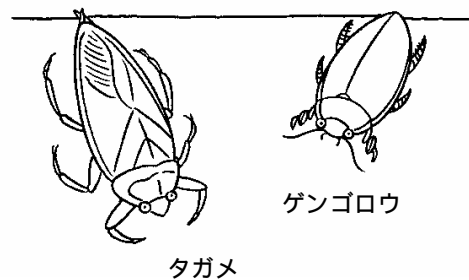
### 空気<sup>くうき</sup>のあわを体<sup>からだ</sup>につけている

カブトムシ<sup>ちが なかま</sup>に近い仲間<sup>すいめん</sup>のゲンゴロウ<sup>さき</sup>は、ときどき、水面<sup>だ</sup>におしりの先<sup>くうき</sup>をつき出し、空気<sup>くうき</sup>を取りこみ、空気<sup>くうき</sup>のあわをおしりの先<sup>さき</sup>につけたまま水中<sup>すいちゅう</sup>で活動<sup>かつどう</sup>します。この空気<sup>くうき</sup>のあわから、酸素<sup>さんそ</sup>を取りこんで息<sup>いき</sup>をしています。ゲンゴロウ<sup>すいめん</sup>によく似た仲間<sup>なかま</sup>のガムシ<sup>むね</sup>は、胸<sup>むね</sup>の所<sup>ところ</sup>に生えている毛<sup>は</sup>に空気<sup>くうき</sup>をため、水中<sup>すいちゅう</sup>ではそれを使って生きています。水面<sup>すいめん</sup>にいることが多いミズスマシ<sup>すいめん</sup>は、水中<sup>すいちゅう</sup>では、羽<sup>はね</sup>の下<sup>した</sup>に空気<sup>くうき</sup>をためていて、それを利用<sup>りよう</sup>します。

### 長い呼吸管<sup>なが こきゅうかん</sup>を水面<sup>すいめん</sup>に出して呼吸<sup>だ こきゅう</sup>する

ミズカマキリ<sup>なが こきゅうかん</sup>やタガメ<sup>さき すいめん</sup>などは、おしりの先<sup>だ こきゅう</sup>にある長い呼吸管<sup>なが こきゅうかん</sup>の先<sup>さき</sup>を、水面<sup>すいめん</sup>に出して呼吸<sup>だ こきゅう</sup>します。マツモムシ<sup>すいめん</sup>のように、おなかの先<sup>さき</sup>を水面<sup>すいめん</sup>に出して呼吸<sup>だ こきゅう</sup>をし、腹面<sup>ふくめん</sup>にも空気<sup>くうき</sup>をためられることから、いつもおなかを上<sup>うへ</sup>にして泳いでいる変<sup>か</sup>わりものもいます。

(監修・中山 周平)



タガメ

ゲンゴロウ

